

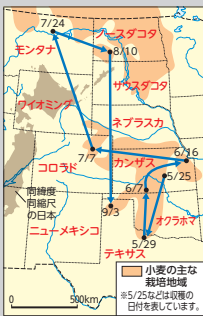
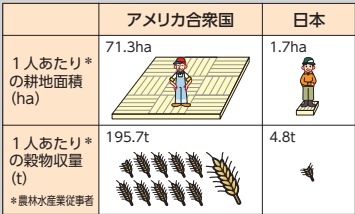
デジタル教科書指導案／地理的分野

1. 題材 p.100-101 大規模な農業と多様な農産物
2. 目標 (1) アメリカ合衆国では、適地適作による大規模農業が行われていることを理解することができる。
(2) アメリカ合衆国の農業が、世界に大きな影響力をもっている理由を考察できる。

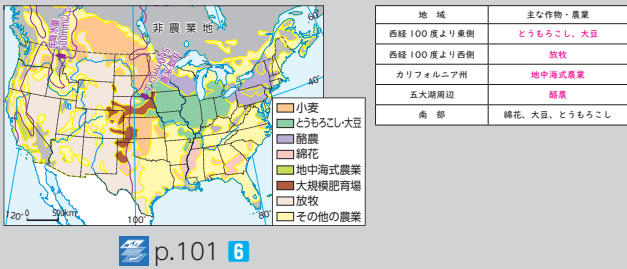
3. 章・節の評価規準例につながる指導のポイント

評価との関連	指導のポイント
知識・技能	・アメリカ合衆国の農業について、大規模農業と適地適作の面から理解している。 ・資料を活用して、アメリカ合衆国とカナダのおおまかな農業地域を理解している。
思考・判断・表現	・アグリビジネスや穀物メジャーが世界に与える影響について、アメリカ合衆国の農業の特色を踏まえて考察している。

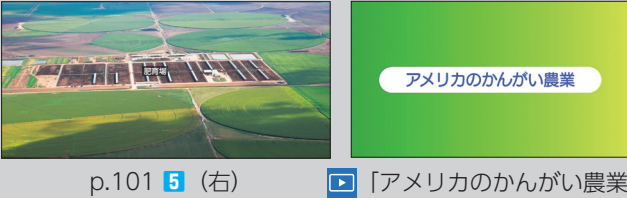
4. 指導過程

	学習内容・学習活動	資料・発問	留意点(○)・指導のポイント(◆)
導入	1. 「広大な小麦畑での収穫作業」を題材にし、本時の課題をつかむ。 2. 収穫だけを行う職業の人がいる理由を予想させ、学習課題への見通しを持つ。	資料1:  p.100 1 資料2:  「アメリカ合衆国の大規模な農業」 発問: アメリカ合衆国の農業の特色は何だろうか。 資料3:  p.100 2 発問: アメリカ合衆国でこれほど大規模な農業を行うことができるのはなぜだろうか。	○ アメリカ合衆国の小麦畑の収穫作業の写真と動画を見せながら、本時への導入を図る。 ○ 収穫だけを行う職業の人がいる理由を予想させる。 ◆ コンバインクルーの移動ルートの例も見せながら、大規模に農業が行われていることに気付かせる。 ○ 「学習前の予想」へ記入させ、本時の学習展開の見通しを持たせる。
	学習課題：北アメリカ州で、農産物を大量に生産したり、輸出したりできるのは、なぜだろうか。		
展開	3. 北アメリカ州の農業の特色を理解する。 (1) 大規模な農業	資料4:  p.100 3 発問: アメリカ合衆国の農業は日本と比べると、どのような特色があるのだろうか。	○ アメリカ合衆国の農家の規模について、日本の農家と比較しながら理解させる。 ○ 「大規模」で終わらず、具体的な数値でイメージさせる。 ◆ 1人あたりの耕地面積が広いこと、大型機械を使った農業が可能となり、高い生産性を上げていることに気付かせる。

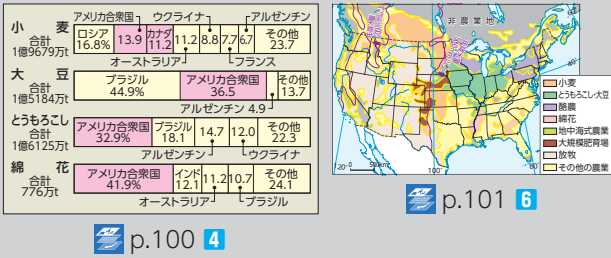
(2) 自然環境に合わせた農業



地図から気付いたことをまとめてみよう。



農地が円形なのはなぜだろうか。



グラフからいえることを挙げ、これらの農産物の生産が盛んな地域を地図で確認してみよう。

アメリカ合衆国の農産物が、世界で大きな割合を占めることができるのはなぜだろうか。

4. アメリカ合衆国の農業が世界にもつ影響力について理解する。

○ 学習プリントを活用し、アメリカ合衆国の農業地域をまとめさせる。

○ 西経 100 度の線と年降水量 500mm の線にも着目させる。

◆ 広大なアメリカ合衆国やカナダでは自然環境に合わせた農業を行っていることに気付かせる。

○ 農地が円形になっている理由を気候や経済の面から考えさせる。

◆ 肥育場に農地を隣接させるなど、効率のよい農業を行っていることを考察させる。

○ 資料から、アメリカ合衆国の農業が世界に与える影響について考えさせる。

◆ 小麦やとうもろこしなどの穀物で高い割合を占めていることから、世界の農産物市場に大きな影響力があることを理解させる。

◆ アグリビジネスや穀物メジャーの存在を理解させる。

5. 本時のまとめをする。

アメリカ合衆国が農産物を大量に輸出できる理由について、「広大な土地」と「適地適作」の語句を使って説明しよう。

6. 学習課題への振り返りの活動を行う。

「学習後の振り返り」の欄に記入してみよう。

◆ アメリカ合衆国では、広大な土地を生かして、自然環境に合わせた適地適作の農業を行い、大規模な機械や施設を用いて特定の作物を大量生産していることなどを説明できたか確認する。

○ 「学習後の振り返り」へ記入させ、「学習前の予想」と比較させる。